

血液培養における黄色ブドウ球菌陽性時の 臨床的意義とコンタミネーションの特徴について 臨床研究のお知らせ

研究の目的

菌血症は、ばい菌が血液に入る重症の感染症です。一般に発熱がある場合に、診断や重症度を評価するために血液培養検査をします。今回の研究にある黄色ブドウ球菌は、主に皮膚に存在し、心臓、関節や骨などに感染症を引き起こし、命に関わるばい菌です。そのため血液培養検査で黄色ブドウ球菌が検出した症例の多くは、治療の対象となります。しかしながら、汚染菌(コンタミネーション)という治療が必要のない状態が存在することが知られています。実際、臨床的に治療するかどうかの判断は難しいことが多いですが、その特徴は十分検討されていません。今回、当院からの黄色ブドウ球菌が血液培養から分離された症例の臨床的な特徴を検討することが本研究の目的となります。

研究の方法

京都市立病院で以下に該当する患者さんのカルテを拝見し、データを収集、解析します。研究実施期間は2023年1月から2年間としております。

- 2014年4月1日から2022年5月31日までの間に、血液培養検査を受けた方であり、検査から黄色ブドウ球菌が分離された方

(以下の方は対象から除外されます。)

- ・ 年齢が18歳未満である方

以下の情報を集めます。

- 基本的な情報：年齢、性別、基礎疾患など
- バイタルサイン：体温、血圧、脈拍、呼吸数、SpO₂、意識状態
- 検査値：白血球数、血小板数、血清CRP値、血清クレアチン値、血液尿素窒素など
- 培養結果：血液、尿、喀痰
- 臨床診断名、治療の有無/期間

プライバシーの保護

データ収集の際には、みなさんの個人を特定しうる情報(個人識別情報)は院内で厳重に管理します。個人が特定されないよう匿名化し、データの解析を行います。この研究の成果は、学会や医学雑誌などに発表する予定ですが、その際にみなさんの名前や身元が明らかになることはありません。また、この研究は当院の臨床研究倫理審査委員会の承認を得ており、みなさんの権利が守られることが確認されています。

提供いただいた情報は以下の研究者が利用します。

- ・ 與語 葵 (京都市立病院 感染症科)
- ・ 栃谷 健太郎 (京都市立病院 感染症科)

※情報管理責任者は與語葵です。

研究担当者および連絡先

この研究に関してご質問がある場合や、対象となる方でご自身のデータが研究に利用されることを拒否される場合は、お手数ですが以下の連絡先へご連絡ください。

主任研究者：京都市立病院 感染症科 医師 與語 葵

連絡先：(Tel)075-311-5311 (E-mail) ayogo@kch-org.jp

または、研究責任者：京都市立病院 感染症科 栢谷 健太郎

連絡先：(Tel)上記同じ (E-mail) ktochitani@kch-org.jp